

第 5 回学会報告記 (CCT2014)

Complex Cardiovascular Therapeutics 2014 (CCT2014)が 2014 年 10 月 30 日(木)

から 11 月 1 日 (土) の 3 日間、神戸国際展示場で開催されました。毎年、全国のインターベンションに精通した先生方の熱い討論がなされる国内でも有数の学会です。

同時期に APHRS 2014、第 55 回脈管学会総会も開催されていたこともあり、今回当院からは石原先生、私 (辻村) の 2 名が参加させて頂きました。

1.会場

会場は、三ノ宮駅からポートライナーで約 10 分の市民広場駅下車すぐの神戸国際展示場でした。当院からは 1 時間程度と交通の便も良く、不自由を感じることなく参加することができました。

会場は、Coronary Theater、Themed Theater といった大きなライブ会場を含め、計 11 会場が設けられておりました。国内の学会ではありますが、ライブ症例をはじめ、英語での発表が多数あり、非常に刺激的でした。その他、口述発表だけでなく、ポスター発表・展示場・セミナーなども多数企画されており、非常に魅力的な学会でした。



写真 1 : メイン会場



写真 2 : 市民広場駅での看板



写真 3 : Coronary Theater

2.当院からの学会発表

石原 隆行 先生

「How to use imaging devices for in-stent restenosis ~ 血管内視鏡関連の話題 ~ 」

私 (辻村 卓也)

「A Case of Calcified Nodule Developed between 31 and 94 Months after Sirolimus-eluting Stent Implantation Observed by Angioscopy and Optical Frequency Domain Imaging」

私は Best Intra-coronary imaging Competition(BIC)のセッションで発表させて頂きました。未熟者ではありますが、今回は慣れない英語発表に挑んで参りました。発表 7 分、質疑応答 5 分。前日の夜中・当日会場へ向かう電車の中・発表直前の会場と、最後の最後まで読み原稿・予想質問を読み返し、イメトレ十分で挑んで参りました。なんとか自分 1 人で質疑応答を耐え抜くことを目標に頑張りましたが、全然だめでした。最後は立ってるだけで精一杯でした。

自分の発表だけでなく、今回の学会を通じて感じたことですが、医学的知識・経験の向上もちろん大切ですが、それだけではなく、やはり英語力の必要性を再度痛感できた学会でもありました。多くの先生方が英語で発表している姿は刺激を受けました。今回、満足に質疑応答できなかった悔しさ・恥ずかしさが残る学会発表にはなりましたが、座長先生、4 人の

コメンテーターの先生方から貴重な御意見・御指摘を頂くことができ、新たな側面から症例を見返すことができ非常にいい機会になりました。今後は、日々の英語でのカンファレンス・抄読会をより大切に、次回の英語発表は今回以上を目指し日々精進していきたいと思えます。



写真 4：私なりに英語で必死に発表してます。

3. 学会後活動

他施設の先生方との交流会が開催されました。臨床以外にも様々な話で盛り上がり、非常に有意義な時間となりました。

4. まとめ

個人的には初めてのCCT参加でしたが、想像以上に非常に楽しく、勉強も多くさせていただいた学会となりました。多くの御著名な先生方のお話を聞くことができる貴重な機会であり、新たな視点で新たな発見をできたことも多々ありました。来年も同時期に開催予定とのこと

で、是非参加したいと感じました。

今後も当院としては、臨床、学会活動と力を入れていれ、日々精進していきたいと感じた 3

日間でした。以上、第 5 回関西労災病院循環器内科学会報告記でした。